

クリスチャン政治家に聞く

等身大の日米関係目指し

衆議院議員 山川百合子 事務所長 瀬戸 健一郎

高校時代に交換留学で米国へ、その時に「世界に向けて堂々と日本を主張できる政治家になる」と政治家を志し、草加市議を6期23年間勤め、参院全国比例選挙にも立候補した瀬戸健一郎氏（アツセンフリー・草加神宮キリスト教会員）。現在は、妻の山川百合子衆議院議員の事務所長として国政に関わる。辺野古基地問題、毎月勤労統計不正調査問題など、混迷を極める日本の政界にあって、瀬戸氏はどんなビジョンをもって国政に関わっているのか、話を聞いた。【中田 朗】



「6年前に参議院全国比例選挙に立候補された。あの時は日本維新の会から立候補しました。な

「政治家にとって大切なものは何でしょうか？ 覚悟だと思います。やはりの覚悟がないと、物事を正常化させていく、本来の方向に導いていくことは難しい。覚悟をもって立ち続けたい、いつまでもまよわぬ政治がほしい、それが私の思いです。米国への真の独立と解放はないと、正々堂々と世界に主張していく「等身大の日米関係」をつくっていくために、アメリカカときちんと対峙（たいじ）していく、この姿勢を貫くことだけは譲れないね」と。だからあの時、希望の党には台流しない無所属で、玉砕覚悟で選挙戦をやるうと夫婦で祈って決めました。そうしたら、枝野幸男さんが「立憲民主党で一

信をかけてやる。それが「国権の発動たる戦争」です。そういう武力行使も辞さないというアメリカと軍事行動を共にすることは、日本国憲法に照らしてみれば違憲です。だからそのことに道を開く安本法則は違憲なので

「瀬戸さんは、日米が対等ではなく、等身大の関係を築かなければならないとおっしゃっていますね。私の中では、日本人はエジプトに隷属していた時代のヘブライ人というイメージがあります。あの時、モーセが「我が民を去らせよ」と、ヘブライ人を連れてエジプトを出ていくところが、神様

行ったのに、40年間さまよっているうちに、自分達の自主性を忘れ、エジプトでは過剰労働だったが、とりあえず住む場所も食べる物もあったし、暮らしてみてもそこだった。エジプトは良かった」と言い出す。日本も同じです。アメリカが仲良くし、日米同盟がしっかりしていれば、とりあえず安全、安心。そこから自由と解放を求めようとせず、認められた範囲での自由で満足して

3月26日には、ピースメーカーフォーラム2019 瀬戸健一郎&山川百合子夫妻のために祈る会が、東京・新宿区の京王プラザホテルで開催される。会費1万2千円。申し込みは3月19日締め切り。問い合わせは080・6725・3323（池田幸子）

法を改正するならば、第9条ではなく、第8章「地方自治」を見直すべきだと痛感していました。そんな時、東京一極集中を二極に分け、そこから地方に波及していく形が今の中央集権では救えない。地方の声を救うていくのだと、そう言っていた。これはやらないといけない、正直燃えました。どこか選挙の直前に、当時、日本維新の会代表の橋下徹氏が沖縄海兵隊の司令官に対し、「そなたに婦女暴行を起こすよらない平和をつくる」を旗印にやっているのを見て、安本法則はありえない。原案容認もありえない。アメリカに軍事力で追いつくことが対等な日米関係だと考えるのは、正々堂々と世界に向けてありのままの日本を主張していく「等身大の日米関係」をつくっていくために、アメリカカときちんと対峙（たいじ）していく、この姿勢を貫くことだけは譲れないね

「政治家にとって大切なものは何でしょうか？ 覚悟だと思います。やはりの覚悟がないと、物事を正常化させていく、本来の方向に導いていくことは難しい。覚悟をもって立ち続けたい、いつまでもまよわぬ政治がほしい、それが私の思いです。米国への真の独立と解放はないと、正々堂々と世界に主張していく「等身大の日米関係」をつくっていくために、アメリカカときちんと対峙（たいじ）していく、この姿勢を貫くことだけは譲れないね」と。だからあの時、希望の党には台流しない無所属で、玉砕覚悟で選挙戦をやるうと夫婦で祈って決めました。そうしたら、枝野幸男さんが「立憲民主党で一

民であり、政府中核の外務省北米局が在日米軍と直接交渉している。占領軍と被占領国が交渉しているような関係です。でも、自衛隊と在日米軍が実務的な話し合いをする。あくまでも、霞が関とワシントンDCの政府レベルが公式チャンネルとして機能する。この勉強会が私的な勉強会なのではなく、立憲民主党の基本政策には「日米地位協定の改定を提起する」とありますから、衆議院外務委員でもある山川にとっても重要な課題です。これまでも

部会事務局長や外交安全保障特命チーム事務局長として、立憲民主党基本政策や立憲ビジョンに「平和創造外交（ピースメイキング・ディプロマシー）や「等身大の日米関係」を明記することが出来ました。日米同盟委員会や日米地位協定の問題は世界平和にも、日本型テモクラシーの発展にも核心部分の課題なので、夫婦二人三脚でがんばってまいります。

政治家に必要なものは「覚悟」

「政治家にとって大切なものは何でしょうか？ 覚悟だと思います。やはりの覚悟がないと、物事を正常化させていく、本来の方向に導いていくことは難しい。覚悟をもって立ち続けたい、いつまでもまよわぬ政治がほしい、それが私の思いです。米国への真の独立と解放はないと、正々堂々と世界に主張していく「等身大の日米関係」をつくっていくために、アメリカカときちんと対峙（たいじ）していく、この姿勢を貫くことだけは譲れないね」と。だからあの時、希望の党には台流しない無所属で、玉砕覚悟で選挙戦をやるうと夫婦で祈って決めました。そうしたら、枝野幸男さんが「立憲民主党で一



昨年のピースメーカーフォーラムで、「平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから」(マタイ5・9)の書について説明する瀬戸氏(左端)